

平成 29 年度 事業計画

昨今の観光産業を取り巻く環境や、地域間競争における下呂温泉の立ち位置は依然として厳しい状況が続くと予想されますが、平成 29 年度も元気な下呂温泉をアピールし、地域の活性化に向けた取り組みを当協会がリーダーシップを発揮し実施して参ります。

本年度は、国が推進する DMO(Destination Management/Marketing Organization)の観点から、客観的データに基づいた観光推進を主軸とし、地域マーケティングや地域マネジメントを強化させ、地域主体となって稼ぐことができる事業展開を図っていきます。観光経済新聞紙上における「温泉・食事は好評価でもまちづくり面に課題」という当地域の変わらぬ現状や、来訪者調査における同様の結果も踏まえ、お客様の滞在時間増加に伴う消費の拡大を目指し、より強く魅力的な下呂温泉を目指していきます。また、自然環境保全や人材育成にも磨きをかけ、全国初となるエコツーリズムと DMO を組み合わせ「E-DMO」として他地域との差別化を図る取り組みを進めていきます。

国内のみならず海外誘客においても、1997 年に友好提携を結んだ儒城観光振興協議会をはじめ、昨年度友好提携を結んだ台中市温泉観光協会との連携を強化し、相互交流による温泉文化の発展や、中部国際空港への航空便増便、それに伴う当地域ならびに中部地域への来訪者の増加など将来に亘る交流事業として本年度も継続していきます。また、欧米・中国・東南アジアからの富裕層の受入強化に伴う誘客促進など広域的なインバウンド誘致によって、下呂温泉宿泊客数の底上げを図っていきます。

誘致宣伝委員会では、各方面からの入込状況などの調査・分析をはじめ、本年度もインターネット、ラジオ、テレビなどを活用した効果的な広告宣伝を行い、関東・近畿・中部・東北・中国・四国・九州方面に至る広範囲への国内誘致キャラバンを実施します。また、下呂市、下呂商工会、下呂温泉旅館協同組合、下呂市コンベンションビューロー、下呂ふるさと文化財団などとの連携をより強化し、下呂交流会館を中心とした「MICE」による経済効果の高い団体誘客活動を進めます。

交流研修委員会では、下呂市の観光資源を対象にした下呂市の観光資源視察研修や先進地の視察研究をして参ります。

まちづくり委員会では、本年度も市当局、議会と連携しながら下呂温泉街のまちづくりを進めて参ります。また環境整備事業として植樹・清掃活動などを行うとともに、貸自転車運用による受入態勢整備と稼ぐ仕組みづくりを構築して参ります。

おもてなし委員会では、下呂温泉に訪れたお客様に満足していただけるよう、おもてなしの心で、お客様の目線に立ち「いでゆ夜市」「キャンドルイルミネーション」等のイベントを行って参ります。

下呂市観光協会連絡協議会では、市内各地域との一層の連携と行動、協働作業により豊富な観光資源を連携させ、更なる魅力アップに努めて参ります。

その他、富加・関インターからの県道アクセス、4 1 号線雨量規制緩和、リニア中央新幹線によるアクセスの向上、河川及び景観の整備、安全確保のための基盤整備、“ワイドビューひだ”の大阪直通便の増発、北陸新幹線を含めた高山本線の更なる有効活用等、国や県など関係機関への働きかけを継続していきます。

下呂温泉への年間宿泊者数が 108 万人に到達するための数値目標を定め、常に現状を見極め、汗をかきながら日本の宝である下呂温泉の更なる発展と雇用の確保、地域の活性化を目指して参ります。関係各位のご厚情と会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。